

勇気を出したあの日

千葉県 葛飾小学校 六年

堀内 荘汰

4年前、僕は家族と電車に乗っていた。僕とお兄ちゃんは席に座って、いっしょにゲームをしていた。すると、小さな男の子とお母さんが乗ってきた。男の子は立つのが嫌で、

「お母さん、座りたいー。」と言い出したが、「我慢しようね。」と、その子のお母さんは言った。

そのとき、僕は席を譲りたいけれど、声をかけるのは恥ずかしいと思い、席を譲れなかった。しかし、僕のお兄ちゃんは、「あの、よかったらどうぞ。」と言い、男の子に席を譲った。

すると、男の子はすぐ席に座り、その子のお母さんはお兄ちゃんに、

「どうもありがとうね。」と言った。

あとでお兄ちゃんに、

「どうして、席を譲れたの？ 恥ずかしいとか、そういうこと思わなかったの？」と聞いてみると、

「俺は昔、中学生に席を譲ってもらったのが嬉しくて、いつか自分もそういう親切をしてみたいなと思ったから、今がそのときと思って、男の子に席を譲ったんだ。」

と教えてくれた。それを聞いて、僕もいつか誰かに親切にしてみたいなと思った。

そして、僕は今現在バスに乗っている。しかも、満員のバスに乗っている。運良く席に座れたけれど、僕の前面におばあちゃんがいる。すごく重たそうな荷物を持っていて、とても辛そうだ。

でも、そんな状況なのに僕は席を譲る勇気が出なかった。なんで席を譲れないんだろう、と思った。と、そのとき、4年前のお兄ちゃんの言葉を思い出した。

「いつか自分も親切をしてみたいなと思ったから、今がそのときと思って、男の子に席を譲ったんだ。」
そうだ！お兄ちゃんはいつか親切をしてみたいと思ったから、あのとき男の子に席を譲ったんだ。だったら、僕だって。

そして、僕は勇気を出しておばあちゃんに、

「あ、あの、よかったら、あの、あの、席どうぞ。」と言った。

言った。言えた！やった！！

おばあちゃんは、「ありがとね。ありがたく座らせてもらうよ。」と言って、席に座った。そのときなんだか、自分の心がほっこりあたたかくなった気がした。

その夜、僕が家族にそのことを言ったら、みんなが、「勇気を出してよかったね。」と言ってくれた。そして、寝る前にお兄ちゃんに、

「お兄ちゃんも席を譲るとき、緊張した？」と聞くと、お兄ちゃんは、

「そりゃ当たり前だろ。お前な、見知らぬ人に話しかけるのは、緊張するに決まってるだろ。」と言った。そうか、お兄ちゃんもあの時とき勇気を出したんだ。これは後からお母さんに聞いたことだけれど、お兄ちゃんが、「あいつ、なかなかやるじゃん。」と言っていたらしい。

お兄ちゃんに席を譲ってくれた中学生も緊張したのかな？誰かに親切にするためには、ときには勇気が必要だけれど、これだけは言える！

その勇気は、人生の中ではちっちゃな勇気だ。